

## じっくり登山、ゆっくり温泉 森吉山・秋田駒ヶ岳

実施日	2013年7月14日(日)～17日(火)	
天候	晴れ	
リーダー	若村 勝昭	
参加者	若村貴世子、若村勝昭、友近洋子、伊東勝昭、関塚七海 計5名	
費用	宿泊費34,000円、交通費33,200円(新幹線、レンタカー、ゴンドラ、回送費、シャトルバス等) 他食事代、観光費等	
タイム	14日	盛岡(レンタカー)森吉山荘(泊)
	15日	山荘(レンタカー)阿仁スキー場ゴンドラ駅(ゴンドラ)山頂駅(9:20)阿仁避難小屋(10:00)森吉山頂上(11:05～11:30)山人平(12:10～12:50昼食)ヒバクラ分岐(13:05)ヒバクラ登山口駐車場(15:00レンタカー)森吉山荘(泊)
	16日	山荘(レンタカー)秋田駒ヶ岳アルパ(シャトルバス)八合目駐車場(10:20)阿弥陀池(11:40～12:10)男女岳頂上(12:30～13:05昼食)焼森(14:00)八合目駐車場(14:50シャトルバス)秋田駒ヶ岳アルパ～レンタカー)乳頭温泉鶴の湯本陣(泊)
	17日	鶴の湯(レンタカー)田沢湖～角館～盛岡

14日 東北地方豪雨のニュースを聞きながら新幹線で盛岡へ。明日の登山日の快晴を祈りながらうす曇りの中、車を駆って宿へ。

15日 ゴンドラを降り立ち山道へ。天候はまあまあの晴。ゆっくり登ると繚乱たる花々がお迎え。以下、花列伝。

・ハクサンチドリ・ヒメイチゲ・チングルマ・イワオトギリソウ・ハクサンシャクナゲ・ゴゼンタチバナ・ハクサンシャジン・ヨツバシオガマ・エゾオヤマリンドウ・ウメバチソウ・チングルマ・



ニッコウキスゲ、そしてシラネアオイの楚々として咲く薄紫の花。

次々と迎える花畑につい足も止まりがち。カメラも忙しい。

頂上を過ぎると池塘群、さながら尾瀬



ヶ原を歩くよう。水芭蕉も見る。花の競演が終わり、まもなく林間を下り

駐車場。昨日の雨に濡れた木道に注意しよう。一昨日のj R Oの講演会で「事故のほとんどは、3/4の行程を



過ぎたところで起こる」と聞いた。と思うや、切り株に乗せた右足がスルッと滑り、見事なスッテンコロリ。背中はずックがクッションだが、左ひじと左腰を激打し痛さに声も出ない。

仰向けのまま痛さをこらえ、ひじをまさぐれば特に飛び出た所もなく、指の関節も動く。骨折はないようだ。そこで、去年受けた「山の知識検定」の出題を思い出した。

"山のケガは、まずR・I・C・E(ライス)". ①R(レスト:安政)しばらく倒れたままじっとしていた。②I(アイシング:冷却)メンバーからの冷湿布薬を貼る。③C(コンプレッション:圧迫)これも借り物のピッチリした腕カバーを巻く。④E(エレベーション:挙上)腕をザックの肩バンドに吊る。

腕は良いとして、左腰はさすってごまかし、そろそろと駐車場へ。

さて、宿へ出発と駐車場を出ると、前方73mの道路にツキノワグマ2頭。ゆっくりゆっくり向こうの方へ歩いて行く。やがて右手の草むらへ。そこで、こちらもゆっくりと宿へのご帰還。温泉で痛む腰をさする。



16日 平日だが秋田駒ヶ岳八合目駐車場はそこそこの込み具合。



山腹を大きく巻きニッコウキスゲ群落の道を進み阿弥陀池へ。男岳か男女岳か迷ったが、山容の大きい男女

岳へ登る。

頂上でゆっくり昼食をとっていたら、厚い雲も晴れて眺望が開けてくる。普段の心がけの良さを自ら賞める。この登路には可憐なミヤマウスユキソウが風にそよぐ。



頂上で、コマクサの咲く砂礫地の場所をダンディな老年の登山者に教わる。秋田弁がやわらかく耳に響く。

そこで一句「夏山に秋田訛りの声やさし」



お粗末さま。八合目駐車場からシャトルバス、レンタカーで乳頭温泉鶴の湯本陣へ。囲炉裏と板戸の明治の

建物が今宵の宿。乳白色の温泉にザブン。



数種の湯をハシゴする。夕食は山菜づくし、岩魚は囲炉裏で焼き、名物のイモ鍋はおかわりもたっぷりでお腹一杯。明日からダイエット。

17日 朝はゆっくり朝湯で、ゆっくり出発。角館武家屋敷見学後、盛岡から新幹線で帰京。お疲れさまでした。転倒負傷もメンバーの皆様のサポートで何とかなりました。ありがとうございました。

(記・若村 勝昭)  
(写真提供・若村貴世子/友近洋子)

